

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 17 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2014

課題番号：23330254

研究課題名(和文) 小学校外国語活動実践を組み込んだ教員養成6年制に関する研究

研究課題名(英文) The Pre-service Training Standards for Foreign Language Activities in Japan

研究代表者

本田 勝久 (HONDA, KATSUHISA)

千葉大学・教育学部・教授

研究者番号：60362745

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,900,000円

研究成果の概要(和文)：各教員養成系大学及び教育学部では、2006年7月の中央教育審議会答申において提言された事項を踏まえ、小学校教員養成における開講科目や履修基準を検討している。しかしながら、外国語活動の指導において高度な教育実践力を身につけた教員を養成することには至っていない。本研究は、小学校外国語活動のための「教員養成スタンダード」の策定を目的とする。担当する教員に必要な資質や能力を明確化し、外国語活動を担当できる教員を養成するための履修基準を提案する。また、長期的な成長モデル(学びの継続性と発展性)を見通した小学校外国語活動のための「教員養成スタンダード」を提案し、外国語活動を担う教員養成の枠組みを議論する。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to draw up a standard of pre-service training for foreign language activity teachers and to suggest quality and ability criteria for teachers who conduct these activities. Discussions about how to meet the huge demand to make pre-service training compulsory in Japanese universities have been held.

The implementation of foreign language activities, some universities have introduced English major courses for elementary school teachers. They have also discussed restructuring their course curriculums to meet the Ministry's expectations; but the reform is only partially complete.

The study will commence with an overview of the current state of pre-service teacher training in Japan, and will then provide examples of curriculums that focus on integrating the skills and knowledge that university students need. Finally, it will propose a framework of professional standards for teachers conducting foreign language activities.

研究分野：教員養成、教育課程

キーワード：外国語活動 教員養成 教職課程 教職実践演習 教育実習

1. 研究開始当初の背景

学校現場で求められている教員の資質能力は、教科の指導力のみを指すのではなく、コミュニケーション能力や思考力、判断力、問題解決能力などを含めた総合的な力量にあると言える。この力は、教員養成のあらゆる授業科目で培い、確認を行っていく必要があるが、既存の授業科目はある程度決まった指導内容を有し、そこでのカリキュラム編成には限界がある。また、欧米における教育実習の期間は半年以上が主流であるが、日本の教員養成においては3~4週間が通常であり、教科や免許によってはそれより少ない期間もあり得る。しかも、現在の教育実習は「指導案作成」と「授業づくり」が主たる活動となっており、総合的に教育実践力を高める授業科目にはなっていない。

研究代表者および研究分担者は、これまでの科学研究の中で、小学校外国語活動のための履修基準や教職関連科目(初等教科教育法)の枠組みを提案してきた。その基本的な考え方は、小学校外国語活動教員を「学級担任+外国語活動指導担当教員」(学級担任としての総合的な力量を有し、かつ外国語活動を指導するのに十分な英語力と指導力を有する教員)という位置づけで、カリキュラム編成案を発表した。また、2010(平成22)年度の入学生から適用される「教職実践演習」の履修基準を確立するとともに、小学校外国語活動に関する科目との関り方や外国語活動のための教員養成カリキュラムの編成を提案してきた。しかしながら、これらのカリキュラム編成を具現化するためには、4年間の教員養成期間では限界があり、教員養成段階において身につけるべき資質能力の育成、学生の自主的な学習の創造、さらには長期的な成長モデルを見通した学習デザインの作成には6年制の教員養成が必要となる。

本研究では、ヨーロッパの言語教育(CEFR)や教員養成の枠組み(ECTS)からの知見とともに、6年制の教員養成を実現している北欧の事例などを参照し、日本の教員養成システムの確立と、小学校外国語活動を担当する教員を養成するための6年制教育コースを模索する。

2. 研究の目的

各教員養成系大学及び教育学部では、2006(平成18)年7月の中央教育審議会答申(「今後の教員養成・免許制度の在り方について」)において提言された事項を踏まえ、小学校教員養成における新規開講科目や履修基準について検討を重ねている。また、小学校の教育課程に外国語活動が追加されることに伴い、小学校教科及び教職科目の履修基準を見直し、カリキュラム改正を審議している。本研究は、小学校外国語活動のための教員養成6年制に関する枠組みを構築することを目的とする。小学校外国語活動教員を「学級担任+外国語活動指導担当教員」という位置づけで、小学校での授業実践を組み込んだカリ

キュラムを編成し、小学校外国語活動を担当できる担任教員を養成するための6年制教育コースを模索する。

3. 研究の方法

(1) 外国語活動における教員養成スタンダードの策定

小学校外国語活動を担当する教員にとって必要な資質や能力を明確化し、外国語活動を担当できる担任教員を養成するための6年制教員養成カリキュラムを体系化する。教員養成段階において必要な資質能力を確実に身につけさせる「外国語活動における教員養成スタンダード」を策定する。

(2) 外国語活動を補完・発展させる教職実践演習の開講

小学校外国語活動を担当する教員の教育実践力を育成するため、6年制教員養成における教職実践演習の具体的なカリキュラムの位置づけや方法論を提示する。教科及び教職科目との相互補完関係を強化し、質の高い確かな教育実践力を形成する「外国語活動のための教職実践演習」を開講する。

(3) 外国語活動実践力を高める教育実習制度の導入

小学校外国語活動を担当する教員にとって必要な総合的な力量を培い、教育実践力を向上させる教育実習制度を導入する。6年制教員養成におけるカリキュラムデザインを確立し、「外国語活動の実践力を高める教育実習制度(海外教育実習など)」を導入する。

(4) 外国語活動のための教員養成6年制カリキュラムの具現化

教科に対する高い専門性と現場の教育課題に的確に対応できる実践的指導能力を有する教員を育成するため、「外国語活動のための教員養成6年制カリキュラム」を模索する。研究代表者および研究分担者の各大学内での実施(パイロット)その後のカリキュラム修正を経て、「6年制教育コース」を検証する。

4. 研究成果

(1) 平成23年度

小学校外国語活動における教員養成スタンダードを策定するため、平成23年度はその基礎データを収集した。具体的には、外国語活動教員を「学級担任+外国語活動指導担当教員」と位置づけ、「外国語活動を指導するのに必要な英語力や指導力とは何か」を明らかにし、学級経営・授業運営・児童理解といった学級担任としての総合的な力量を備えた教員を養成するためのスタンダードを策定するための基礎データを収集した。

ヨーロッパやアジアをはじめこの分野における先進的・特徴的取り組みが見られる国々を訪問し、それぞれの国の教育事情を教育庁などに出向いて説明を聞き、それぞれの国が発行する教員養成及び教育実習に関する文献や資料を入手した。現地では小学校段階での外国語授業を見学し、実際の授業を撮影した。また、入手した文献や資料(北欧言

語など)を英語ないし日本語に翻訳した。本研究では、ヨーロッパの言語教育や教員養成の枠組みからの知見とともに、6年制の教員養成を実現している北欧の事例を参照するため、フィンランドやスウェーデンなどの北欧諸国の資料を収集し、当該諸国の教育事情及び教員の資質能力育成の具体的取り組みを検証した。

中央教育審議会答申(「今後の教員養成・免許制度の在り方について」)を踏まえ、各大学での取り組みや専門職基準(professional standards)に関する資料を収集した。外国語活動における教員養成スタンダードを策定するためには、これらの要因や「新任教師の習得すべき諸能力の基準(INTASC)」からの知見を考慮し、内外部によるインスペクションとアセスメントを前提としたカリキュラムデザインを模索した。

平成23年度の研究成果は、国内外の学会(e.g., 第50回大学英語教育学会(JACET)全国大会シンポジウム)や専門誌にて発表するとともに、セミナーやパネルディスカッションを開催して公表した。

(2) 平成24年度

小学校外国語活動のための教職実践演習を開講し、6年制カリキュラムの位置づけをデザインした。外国語活動教員を「学級担任+外国語活動指導担当教員」と位置づけ、基礎データを収集するとともに、学級経営・授業運営・児童理解といった学級担任としての総合的な力量を備えた教員を養成するための教育実習について検討した。

「教職実践演習」が求める教員としての資質に見合う教職能力を育成するためには、小学校で必修化される外国語活動に関する内容は不可欠である。そのため、小学校外国語活動のための教職実践演習を開講し、3つのブロックから構成される「教職実践演習」における授業内容を検討した。

第1ブロック: 履修履歴などから自己の資質能力の分析を行い課題を設定するための内容

第2ブロック: 演習やフィールドワークなどによって自己課題を確認補完するための内容

第3ブロック: 個々の課題の補完と発展の成果確認と評価

本科目の企画、立案、実施に当たっては、常に学校現場や教育委員会との綿密な連携協力に留意することが必要である。そこで、専門分野を超えた指導体制や教育委員会及び各学校との協力体制に基づいた連携を模索した。共通の「研究会」(千葉大学英語教育学会など)を基盤とし、附属学校の教員や他大学の研究者及び教育者の参加を呼び掛けた。また、学生に対する適切な教職指導及び教育実習の円滑な実施のための協力体制を整えた。さらには、関東及び中部地区の小学校に対して「教員養成及び教育実習に関する質問紙」調査を実施した。

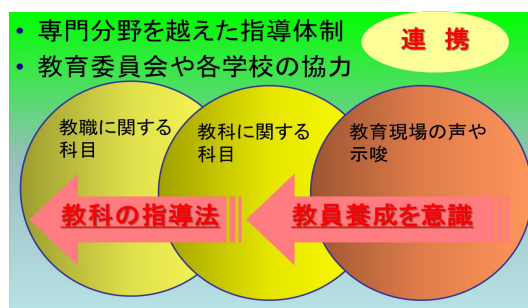


図1. 教職実践演習への協力体制

ヨーロッパやアジアをはじめこの分野における先進的・特徴的取り組みが見られる国々を訪問し、教員養成及び教育実習に関する文献や資料を入手した。また、中央教育審議会答申(「今後の教員養成・免許制度の在り方について」)を踏まえ、各大学での「教職実践演習」の取り組みや教育実習に関する資料を収集した。

小学校外国語活動を担当する教員にとって必要な資質や能力を明確化し、外国語活動を担当できる担任教員を養成するための6年制教員養成カリキュラムを体系化するため、1) 先駆けて英語を教科として導入している中国、台湾を訪問し、教員養成及び教育実習に関する文献や資料を入手した。2) 中国、韓国、台湾からシンポジストを招聘し、東アジアにおける小学校外国語教員養成の現状と課題を議論した。また、今後の日本の小学校外国語活動に対応するため、教員養成段階において必要な資質能力を確実に身につけさせる「教員養成スタンダード」を提案した。上記の研究成果は The 3rd East Asian International Conference on Teacher Education Research や平成24年度日本教育大学協会研究集会で報告した。

小学校外国語活動を担当する教員の教育実践力を育成するため、6年制教員養成における教職実践演習の具体的なカリキュラムの位置づけや方法論を提示した。具体的には3つのブロックから構成される「教職実践演習」における授業内容を構築した。また、教科及び教職科目との相互補完関係を強化し、質の高い確かな教育実践力を形成する「外国語活動のための教職実践演習」を開講するため、必修科目である「教職実践演習」が求める教員としての資質に関する事項に見合う教職能力の育成をめざす枠組みを検証した。

平成24年度の研究成果は、国内外の学会(e.g., 第51回大学英語教育学会(JACET)全国大会シンポジウム)や専門誌にて発表するとともに、公開セミナーを開催して公表した。

(3) 平成25年度

小学校外国語活動のための教職実践演習を開講し、6年制教員養成における位置づけをデザインした。また、実践力を高める長期教育実習制度を導入するための基礎データを収集した。

外国語活動を担当する教員にとって必要な総合的な力量を培い、教育実践力を向上させる教育実習を導入するため、6年制の教員養成を実現しているヨーロッパを訪問し、教育実習に関する文献や資料を入手した。また、インターン制度を確立している台湾を訪問し、その支援体制や評価規準についての知見を得るとともに、実践力を高める教育実習について議論した。さらに、外国語活動のための教育実習に関する縦断的調査を実施した。定期的な記述式質問紙調査、面談調査、ビデオ観察などを含めた統合的な調査を実施し「教育実践力向上のための質的保証」を踏まえた教育実習のための基礎的なデータを収集した。

平成25年度の研究成果は第13回小学校英語教育学会 (JES) 沖縄大会、第37回関東甲信越英語教育学会 (KATE) 長野研究大会、第39回全国英語教育学会 (JASELE) 北海道研究大会、平成25年度日本教育大学協会研究集会で報告した。

(4) 平成26年度

小学校英語教育のためのカリキュラム構成案を改善及び修正し、小学校外国語活動を担当する教員養成のための履修基準や教職関連科目(初等教科教育法)の枠組みを構築した。このカリキュラム構成案は「教科としての英語教育」を視野に入れ、目的論・教材論・方法論・評価論などの観点から、小学校英語教育を担う教員を養成するためのものである。外国語活動のための教員養成カリキュラムを具現化するため、開発したカリキュラムの修正と改善、各大学内でのパイロット実施などを踏まえて、6年制教育コースを模索した。本研究で取り組む「小学校外国語活動実践を組み込んだ教員養成6年制カリキュラム」は、新たな教員養成と免許制度を見据えて、現職教員の能力向上や教職大学院における教育実習の在り方を視野に入れたものである。



図2. 小学校英語教育カリキュラム構成案

今後は、このカリキュラム構成案を改善及び修正し、小学校外国語活動のための履修基準や教職関連科目(初等教科教育法など)の枠組みを構築する必要がある。また、小学校外国語活動を担当できる担任教員を養成するためには、6年制教員養成におけるカリキュラム

ラムデザイン(4+α, 4+2)を確立し、特に5~6年次における教育実習の在り方(図ではインターンシップの部分)を検証する必要がある。

平成26年度の研究成果はThe 9th East Asia International Symposium on Teacher Education や平成26年度日本教育大学協会研究集会で報告するとともに、専門誌に投稿した。また、日本児童英語教育学会(JASTE C)や大学英語教育学会(JACET)でのシンポジウムなどを通して、教員養成6年制カリキュラムを公表し、参加者から「カリキュラム改善のフィード」を得た。

本研究で取り組んだ「小学校外国語活動実践を組み込んだ教員養成6年制カリキュラム」は、新たな教員養成と免許制度を見据えて、現職教員の能力向上や教職大学院における教育実習の在り方を視野に入れたものである。教員養成と教員研修の充実を図るために弾力性を帯びていなければならない。さらには、教育委員会や地域社会と連携し、専門職である教師として総合的な力量を有する教員を養成するための6年制カリキュラムを構築し、今後の教員養成に資する研究として資するものである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計15件)

1. Maria OHATA, Kenji KAWAMOTO, Katsuhisa HONDA, Sixty-Two Motivational Strategies for English Teachers. *Annual Review of English Language Education in Japan (ARELE)*, Volume 26 (2015), pp. 285-300. 査読有
2. 本田勝久・神谷昇・町村貴子・高橋広野「台北市における外国語学習環境 - ひとつのカリキュラムと様々な授業実践 - 」『千葉大学教育学部研究紀要』第63巻(2015), pp. 71-76. 査読無
3. 本田勝久・吉村博与・有常洋菜・矢部睦美・大竹口香織・斉藤花菜・酒井航平「千葉県における小学校英語の歴史と変遷」『千葉大学教育学部研究紀要』第63巻(2015), pp. 333-338. 査読無
4. 樋口忠彦・アレン玉井光江・太田洋・本田勝久他7名(11番目)「小学校外国語活動の教科化にあたって考えておくべきこと」『英語教育(*The English Teachers Magazine*)』第62巻第12号(2014), 66-68. 査読無
5. Katsuhisa HONDA, Takaaki TAKEUCHI, Pre-service Training Standards for Elementary English Education in Japan. *The 9th East Asia International Symposium on Teacher Education Proceedings (CD)* (2014), pp. 1-10. 査読有

6. 本田勝久・山本長紀・星加真実・寺井千景「小学校外国語活動に関する掲示物の語彙分析 - 『学びに繋がる掲示物』の作成に向けて - 』『千葉大学教育学部研究紀要』第 62 巻 (2014), pp. 263-269. 査読無
7. 本田勝久・建内高昭・粕谷恭子・高木亜希子「小学校英語教員養成のための教職実践演習 - 教科化のための枠組みをめざして - 』『日本教育大学協会研究集会発表概要集』(2014), pp. 158-159. 査読無
8. 樋口忠彦・アレン玉井光江・太田洋・本田勝久他 7 名 (11 番目)「JASTEC アピール: 小学校外国語活動の教科化への緊急提言について」『日本児童英語教育学会 (JASTEC) 研究紀要』第 32 号 (2013), pp. 1-17. 査読有
9. 本田勝久・建内高昭・粕谷恭子「小学校外国語活動のための教職実践演習 - 外国語活動の補完・発展をめざして - 』平成 25 年度日本教育大学協会研究集会『発表概要集』(2013), pp. 232-233. 査読無
10. 本田勝久・山本長紀「小学校外国語活動を担当する教員養成 - 海外教育実習を通して - 』『日本教育大学協会研究年報』第 31 集 (2013), 133-142. 査読有
11. 建内高昭「英語授業記録を通して実習生が行う省察 教育実習事後指導から 』『中部地区英語教育学会紀要』第 42 号 (2013), pp. 83-90. 査読有
12. 本田勝久・山本長紀・寺井千景「小学校外国語活動に関する掲示物の実態調査 』『千葉大学教育学部研究紀要』第 61 巻 (2013), pp. 167-172. 査読無
13. 建内高昭「学生が捉える英語授業 教育実習を通して 』『中部地区英語教育学会紀要』第 41 号 (2012), pp. 147-152. 査読有
14. Akiko TAKAGI, The importance of promoting learner autonomy in pre-service teacher education. 『英語授業研究学会紀要』第 20 号 (2011), pp. 29-39. 査読有
15. 本田勝久「小学校外国語活動における評価 』『英語教育 (The English Teachers ' Magazine)』第 60 巻 第 2 号 (2011), 19-21. 査読無

〔学会発表〕(計 27 件)

1. 本田勝久・柏木賀津子・松沢伸二・佐藤臨太郎「小学校英語 - 教員をどう養成するか」『大学英語教育学会 (JACET) 教育問題研究会言語教育エキスポシンポジウム, 2015 年 3 月 15 日, 早稲田大学 (東京)』
2. 本田勝久「英語教育における学習者のニーズと動機づけ」『外国語教育学会 (JAFLE) シンポジウム, 2015 年 3 月 14 日, 東京学芸大学 (東京)』
3. Katsuhisa HONDA, Takaaki TAKEUCHI, Pre-service Training

Standards for Elementary English Education in Japan. The 9th East Asia International Symposium on Teacher Education: SMART Education and Teacher Education in Digital Era, November 4, 2014, Hotel Riviera, Daejeon, Korea.

4. 本田勝久・建内高昭・粕谷恭子・高木亜希子「小学校英語教員養成のための教職実践演習 - 教科化のための枠組みをめざして - 』平成 26 年度 日本教育大学協会研究集会, 2014 年 10 月 18 日, 仙台国際センター (宮城)』
5. Horoshi OTA, Katsuhisa HONDA, Hiroyuki WATANABE, Designing a new way of implementing teacher development and teacher training programs. The Asia Association of Teachers of English as a Foreign Language (Asia TEFL 12th) International Conference, August 29, 2014, Borneo Convention Centre Kuching, Indonesia.
6. 本田勝久・太田洋・建内高昭「台北市における小学校英語教育 - 『英語村プロジェクト』事業 - 』第 40 回全国英語教育学会 (JASELE) 徳島研究大会, 2014 年 8 月 10 日, 徳島大学常三島キャンパス (徳島)』
7. 大島マリア・河本圭司・本田勝久「英語教師を動機づける 62 の方略 - The learned helpfulness model を目指して - 』第 40 回全国英語教育学会 (JASELE) 徳島研究大会, 2014 年 8 月 9 日, 徳島大学常三島キャンパス (徳島)』
8. 建内高昭・本田勝久・太田洋「台北教育大学附属小学校における英語授業 - COLT PartA による授業分析を通して - 』第 14 回小学校英語教育学会 (JES) 神奈川大会, 2014 年 7 月 26 日, 関東学院大学金沢八景キャンパス (神奈川)』
9. 小泉仁・本田勝久・直山木綿子「指導者養成・研修の在り方 - 教科化に向けて 』日本児童英語教育学会 (JASTEC) 第 35 回全国大会シンポジウム, 2014 年 6 月 29 日, 青山学院大学 (東京)』
10. 本田勝久「東アジアにおける英語教育の現状と課題 』第 53 回大都市公立中学校英語教育研究会, 2013 年 10 月 18 日, ホテルポートプラザちば (千葉)』
11. 本田勝久・建内高昭・粕谷恭子「小学校外国語活動のための教育実践演習 - 外国語活動の補完・発展をめざして - 』平成 25 年度日本教育大学協会研究集会, 2013 年 10 月 5 日, 北海道教育大学 (北海道)』
12. 建内高昭・高武和弘「グループ内での英作文の振り返り ボイスレコーダを用いて 』日本教育工学会第 29 回全国大会, 2013 年 9 月 21 日, 秋田大学 (秋田)』
13. 本田勝久・神谷昇・高橋広野・町村貴子

- 「台湾における小学校英語教育と教員養成 - 日本と台湾を比較して - 」関東甲信越英語教育学会 (KATE) 第 37 回長野研究大会, 2013 年 8 月 18 日, 松本歯科大学 (長野)
14. 渡辺浩行・太田洋・本田勝久「コミュニケーション能力の素地から育成をめざす英語指導 モデル授業 DVD の分析結果をふまえて」全国英語教育学会 (JAELE) 第 39 回北海道研究大会, 2013 年 8 月 11 日, 北星学園大学 (北海道)
 15. 本田勝久・賈韶蕾「中国における小学校英語教育と教員養成 - 日本と中国を比較して - 」第 13 回小学校英語教育学会 (JES) 沖縄大会, 2013 年 7 月 14 日, 琉球大学 (沖縄)
 16. HONDA Katsuhisa, TAKEUCHI Takaaki, KASUYA Kyoko, Pre-service Training Standards for Foreign Language Activities in Japan. The 3rd East Asian International Conference on Teacher Education Research, Fri, 07 December 2012, East China Normal University, China.
 17. 建内高昭・本田勝久「小学校における英語教員養成について - 韓国の教員養成大学の事例を中心に - 」平成 24 年度日本教育大学協会研究集会, 2012 年 10 月 6 日, かごしま県民交流センター (鹿児島)
 18. 本田勝久・建内高昭・高木亜希子・粕谷恭子「小学校外国語活動における教員養成スタンダードの策定 - 教職課程の質的水準の向上 - 」平成 24 年度日本教育大学協会研究集会, 2012 年 10 月 6 日, かごしま県民交流センター (鹿児島)
 19. HONDA Katsuhisa, KASUYA Kyoko, TAKEUCHI Takaaki「日本と海外の小学校外国語教員養成 - 長期的な成長モデルを目指して - (シンポジウム)」The JACET 51st International Convention, August 31st 2012, Aichi Prefectural University, Japan.
 20. 本田勝久・渡辺浩行・太田洋「小学校外国語活動の授業、教員養成、教員研修におけるインタラクティブ活動の取り組みの実態」関東甲信越英語教育学会 (KATE) 第 36 回群馬研究大会, 2012 年 8 月 18 日, 共愛学園前橋国際大学 (群馬)
 21. 建内高昭「英語授業記録を通して実習生が行う省察 教育実習事後指導から」第 42 回中部地区英語教育学会, 2012 年 6 月 30 日, 岐阜じゅうろくプラザ (岐阜)
 22. 本田勝久・建内高昭・佐藤臨太郎・石田秀雄・粕谷恭子・高木亜希子「小学校外国語活動の今後の展望 - 教員養成の新たな使命 - 」大学教育・学生支援推進事業 [テーマ A] 大学教育推進プログラムパネルディスカッション(招待講演), 2012 年 2 月 4 日, 大阪教育大学 (大阪府)
 23. Akiko TAKAGI, Promoting reflection of

pre-service teachers in a teaching methodology course. ERAS 2011 Conference, 2011 年 9 月 9 日, Raffles Institution, Singapore.

24. 本田勝久・粕谷恭子・建内高昭・松宮奈賀子「小学校外国語活動を指導できる教員の養成 - 質的水準を目指して - 」第 50 回大学英語教育学会記念国際大会シンポジウム, 2011 年 9 月 2 日, 西南学院大学 (福岡県)
25. Akiko TAKAGI, Importance of teachers' roles in promoting learner autonomy. AILA 2011, 2011 年 8 月 27 日, 北京外国語大学 (中国)
26. 高木亜希子・粕谷恭子「教師の働きかけと児童の理解反応の質的分析 - 公立小 6 年生の授業場面から - 」第 11 回小学校英語教育学会 (JES) 全国大会, 2011 年 7 月 18 日, 大阪教育大学 (大阪府)
27. 建内高昭「学生が捉える英語授業 教育実習を通して」第 41 回中部地区英語教育学会, 2011 年 6 月 25 日, 福井大学 (福井県)

〔図書〕(計 2 件)

1. 本田勝久, 直山木綿子・程 晓堂・鄭 英淑・載 雅茗・丁 玉良・高 益民・松宮奈賀子・アレン玉井光江・粕谷恭子・建内高昭・高木亜希子, 報告書『Symposium: Primary English Education in East Asia (東アジアにおける小学校英語シンポジウム)』(2013), 42 ページ
2. 樋口忠彦・大城賢・國方太司・高橋一幸・本田勝久他 27 名, 研究社『小学校英語活動の展開 理論から実践へ』(2011), 297 ページ

〔その他〕

- ホームページ等
<https://chibasymposium.wordpress.com/english/Primary-English-Education-in-East-Asia>
 6. 研究組織
 (1) 研究代表者
 本田 勝久 (HONDA KATSUHISA)
 千葉大学・教育学部・教授
 研究者番号: 60362745
 (2) 研究分担者
 粕谷 恭子 (KASUYA KYOKO)
 東京学芸大学・教育学部・教授
 研究者番号: 40456249
 建内 高昭 (TAKEUCHI TAKA AKI)
 愛知教育大学・教育学部・教授
 研究者番号: 10300170
 高木 亜希子 (TAKAGI AKIKO)
 青山学院大学・教育人間科学部・准教授
 研究者番号: 50343629